

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	35	大学等名	宮崎国際大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・アクティブ・ラーニング（AL）の体系化及び効果的な AL への取組、学修成果の可視化に向けた取組、eラーニング促進のための教育基盤の構築を概ね着実に進められている。ALを通じたクリティカル・シンキング（CT）の教育とその測定・評価システムは、高校教育で培われる「学力の3要素」を大学教育において更に伸長することにつながり、また、「学士力」の保証にも貢献するとされ、入口から出口までの質保証を伴う総合的な取組が構想されていることは評価できる。
- ・ALの技法のマトリックス化は分かりやすく、また、現在構築中のAL活用の事例や指導案を集めたホームページを一般に公開するという試みは有益であると評価できる。早期実現を期待したい。
- ・事業の実施体制については、事業全体、AP事務局、各ワーキンググループと複数のレベルでPDCAサイクルが機能する状態にあり、重層的な構造になっており、評価できる。

<改善を要する点>

- ・いくつかの項目で目標値を達成できていない。特に、授業満足度アンケートや学修行動調査の実施率、授業外学修時間が目標値よりかなり低い。学修支援システムは整備されているとのことであるが、その実質化のために教職員間の共通認識を図り、必要に応じて改善すること、学生の学修状況を把握する調査方法の妥当性を検証し改善することが必要である。なお、今後も学生の学修状況に関する分析には取り組む必要がある。
- ・学修到達度とは何かというのは根幹の部分にあたる問題なので、平成29年度以降予定している再定義に早急に取り組む必要がある。
- ・事業成果の普及については、定期的にシンポジウムは開催しているが、宮崎県以外での開催や他のAP校との共同開催など、より積極的に本取組を広く発信する努力をする必要がある。